



目標に向かって金属製のボールを投げるペタンク

6/15 スポーツを通して親睦図る
市民ペタンク大会

市民三橋グラウンドで、6月15日、市民ペタンク大会が行われました。ペタンクの普及や参加者の健康増進などを目的に毎年開催されているもので、今年は市内から44チーム170人が参加し、お互いの親睦を深めました。熱戦の末、優勝は矢留A、準優勝は宮籠会、3位は崩道、散田東となりました。なお、古賀茂幸さん(86歳)と古賀多恵子さん(85歳)には、県知事から県ねんりんスポーツ・文化祭大会の最高齢者賞が贈られました。



金子市長に報告を行った大和ファイターズ

6/21 青年海外協力隊としてタイへ
柳河特別支援学校の佐藤さん

柳河特別支援学校教員の佐藤信介さん(31歳)が、6月下旬から、青年海外協力隊として、タイで活躍しています。佐藤さんは同校の高等部に所属し、学校に籍を残しながら約2年間隊員として活動します。赴任地はタイ北部にあるチエンラーイラチャパット大学の障害サポートサービスセンター。佐藤さんは「障害のある学生の支援方法についての助言や提案などを行いながら特別支援教育の質の向上に貢献したい」と話しました。



6月21日、タイへ出発の報告を金子市長にする佐藤さん(左)



孫悟空などの着ぐるみによる芝居を鑑賞

6/26 生の演劇に大興奮
市幼稚園・保育園児演劇等鑑賞会

園児たちに文化芸術を身近に感じてもらうと、6月26日、市民会館で幼稚園・保育園児演劇等鑑賞会が開催されました。市内23の幼稚園や保育園の園児約530人が集まり、東京の「劇団青い鳥ティアティカル・カンパニー」による劇「それゆけ! 孫悟空」を観劇。三蔵法師と共に旅する、孫悟空や沙悟浄、猪八戒によるコミカルな劇に、歓声と拍手で大盛り上がりでした。終了後は、着ぐるみたちとの記念撮影も行われました。

7/1 子どもたちへ歌い継ぐために
白秋のふるさと柳川童謡の日記念コンサート

7月1日に「赤い鳥」創刊100年童謡の日記念コンサートが北原白秋生家・記念館で開催されました。この日は、柳川市や大川市、大牟田市から9つの合唱団などが出演。歌や朗読の他、ハンドベルや大正琴、ギターなどの楽器を使ったさまざまな童謡が演奏されました。

童謡童謡雑誌「赤い鳥」は、大正7(1918)年に、鈴木三重吉氏によって創刊され、当時、第一線の作家や詩人らが協力し大きな注目を集めました。その中の一人が北原白秋です。最近は童謡を知らない子どもが増え、その口から童謡を聴くことが少なくなっています。出演した6歳の男の子は「今日が一番上手にできた」と喜んでいました。こうして小さい頃から童謡になじみ、親しんでくれる子どもたちがいることをとてもうれしく感じました。

白秋会の大城昌平会長は「昨今は童謡を楽しむ機会が減っている。大人たちはその火を絶やさないようにつないでいてほしい」と話していました。

【取材を終えて】子どもたちに童謡をつないでいくためには、大人の私たちが幼いころ、子守歌や童謡を歌ってもらったように、子どもたちに童謡を歌い聴かせていくことが重要なのではないのでしょうか。



1 「ハンドベルゆりの会」の演奏 2 「白秋の詩歌をうたう朱楽の会」による朗読 3 市民劇団「くもで座」の子どもたちが音楽劇を披露

(取材：ふるさとレポート古賀理紗)



沖教育長に文化祭出場を報告する志賀校長(右)など関係者

6/27 被災地に出向き取材し記事に
杉森高校新聞部が全国高校文化祭に出場

杉森高校新聞部が、8月に長野県で開かれる全国高校総合文化祭に出場することになりました。部員たちが熊本地震や九州北部豪雨の被災地に出向き取材した記事などをまとめた「杉森新聞」を提出。1次審査を通過したことから同文化祭への出場が決まりました。6月27日、同校の志賀建一郎校長や顧問の馬原和広教諭、新聞部部長の内野真希さん(3年)が三橋庁舎を訪れ、沖教育長に出場を報告し激励を受けました。

7/2 スパイダーズが優勝
第42回市長杯争奪軟式野球大会

市民大和グラウンドで、7月2日、第42回市長杯争奪軟式野球大会の決勝戦が行われ、前回王者ダイナマイツとスパイダーズが対戦しました。試合は、スパイダーズが初回に1点を先制。6回の2点本塁打でさらに引き離し、3連覇を目指すダイナマイツを4対1で破り、16チームの頂点に。松竹佑典監督は「投手中心の自分たちの戦い方ができたことが勝利につながった」と話しました。



見事優勝を飾ったスパイダーズの選手たち